

火山災害基礎資料

■ 主な火山災害年表

火山名	西暦年	月・日	災害要因	詳細現象
浅間山	1900頃～1970頃			爆発によりガラス戸、障子破損被害
草津白根山	1902	7月15日	噴火	浴場・事務所の建物全壊。
伊豆鳥島	1902	8月上旬(7日～9日のいつか)	噴火	全島民125名死亡。
硫黄鳥島	1903	3月～8月	噴火	噴石、全島民が一時久米島に移住。
有珠山	1910	7月25日	噴火	7月24日 地震により虹田村で半壊破損15棟。25日 家屋・山林・耕地に被害。泥流で死者1名。
浅間山	1911	5月8日	噴火	噴石により死者1名、負傷者2名。空振による家屋の被害。
浅間山	1911	8月15日	噴火	死者多数。
浅間山	1913	5月29日	噴火	登山者1名死亡、負傷者1名。
桜島	1914	1月12日	噴火	地震、噴火により村落埋没、全壊家屋120棟、死者58名、負傷者112名、農作物大被害等。
焼岳	1915	6月6日	噴火	泥流による梓川のせき止め、決済、洪水発生。
浅間山	1920	12月14日	噴火	噴石により峰の茶屋焼失。
霧島山	1923		噴火	(御鉢)死者1名。
十勝岳	1926	5月24日	噴火	熱い岩屑なだれが積雪を溶かして大規模な泥流発生、2か村(上富良野・美瑛)埋没。死者・行方不明144名、負傷者約200名。建物372棟、家畜68頭、山林耕地被害。
十勝岳	1926	9月8日	噴火	行方不明2名。
浅間山	1928	2月23日	噴火	噴石により分去茶屋焼失、屋根の破損多数。山麓で空振のため戸障子破損。
北海道駒ヶ岳	1929	6月17日	噴火	噴石、降下軽石、火碎流(軽石流)、火山ガスによる被害は8町村に及ぶ。家屋の焼失、全半壊、埋没など1915余り、山林耕地の被害多く、死者2名、負傷者4名、牛馬の死136頭。
浅間山	1930	8月20日	噴火	火口付近で死者6名。
浅間山	1931	8月20日	噴火	死者3名。
口永良部島	1931	4月2日	爆発	爆発(新岳の西側山腹)。土砂崩壊、負傷者2名、馬、山林田畠被害。
草津白根山	1932	10月1日	噴火	火口付近で死者2名、負傷者7名、山上施設破損甚大。
阿蘇山	1932	12月18日	噴火	火口付近で負傷者13名。
箱根山	1933	5月10日	噴気	大涌谷の噴気孔で大音響とともに噴出、死者1名。
口永良部島	1933～1934	12月24日～1月11日	噴火	七釜集落全焼、死者8名、負傷者26名、家屋全焼15棟、牛馬や山林耕地に大被害。
浅間山	1936	7月29日	噴火	登山者1名死亡。
浅間山	1936	10月17日	噴火	登山者1名死亡。
浅間山	1938	7月16日	噴火	登山者若干名死亡。農作物被害。
伊豆鳥島	1939	8月18日	噴火	住民、海軍気象観測所、全員撤退。
三宅島	1940	7月14日	噴火	死者11名、負傷者20名、牛の被害35頭、全壊・焼失家屋24棟、その他被害大。
阿蘇山	1940	4月	噴火	負傷者1名。
浅間山	1941	7月13日	噴火	死者1名、負傷者2名。
草津白根山	1942	2月2日	噴火	火口付近の施設破損。
有珠山	1944	7月11日	噴火	負傷者1名、家屋破損、焼失、農作物に被害。
桜島	1946	5月21日	噴火	溶岩流出。山林焼失、農作物に大被害、死者1名。
浅間山	1947	8月14日	噴火	噴石、降灰、山火事、登山者9名死亡。
浅間山	1949	8月15日	噴火	負傷者4名。
浅間山	1950	9月23日	噴火	登山者1名死亡、負傷者6名。山麓でガラス破損。
ペヨネース列岩	1952	9月24日	大爆発	調査中の海上保安庁水路部観測船第5海洋丸遭難31名殉職。

火山名	西暦年	月・日	災害要因	詳細現象
阿蘇山	1953	4月27日	噴火	観光客6名死亡、負傷者90余名。
桜島	1955	10月13日	噴火	爆発で死者1名、負傷者9名、降灰多量で農作物に被害。（以後、1994年頃まで爆発多数。ガラス、屋根、自動車、航空機の被害多数。降灰による農林被害が継続した。）
桜島	1955	10月15日	噴火	爆発で負傷者2名。
伊豆大島	1957	10月13日	噴火	火口付近の観光客のうち1名死亡、重軽傷者53名。
阿蘇山	1958	6月24日	噴火	死者12名、負傷者28名、建築物に被害。
硫黄鳥島	1959	6月8日	噴火	全島民86人は島外に移住。
浅間山	1961	8月18日	噴火	行方不明1名。耕地、牧草に被害。
十勝岳	1962	6月29日	噴火	噴石により大正火口縁の硫黄鉱山事務所を破壊。死者4名、行方不明1名、負傷者11名。
焼岳	1962	6月17日	噴火	火口付近の山小屋で負傷者4名。
三宅島	1962	8月24日	噴火	焼失家屋5棟のほか道路、山林、耕地など被害。
桜島	1964	2月3日	爆発	登山者8名重軽傷。
伊豆鳥島	1965	11月16日	地震	気象観測所閉鎖、全員撤退。
阿蘇山	1965	10月31日	噴火	噴石により建築物に被害。
口永良部島	1966	11月22日	噴火	爆発、噴石、負傷者3名、牛死亡1頭。
硫黄鳥島	1967	11月25日	噴火	硫黄採掘者撤退。
草津白根山	1971	12月27日	火山ガス	温泉造成のボーリング孔のガス(H2S)もれによる中毒死、死者6名。
桜島	1973	6月1日	爆発	火山礫により負傷者1名、車ガラス破損。
新潟焼山	1974	7月28日	噴火	噴石のため山頂付近で登山者3名死亡。
桜島	1974	6月17日	土石流、鉄砲水	土石流、鉄砲水など二次災害発生し、8月9日と合わせて合計8名死亡。
草津白根山	1976	8月3日	火山ガス	本白根山白根沢(弁天沢)で滞留火山ガスにより登山者3名死亡。
有珠山	1978～1978	8月7日～10月27日	噴火	噴出物による家屋や農林被害。地殻変動により道路や建物、上下水道等に被害。1978年10月に二次泥流により死者2名、行方不明1名、軽傷2名、家屋被害196棟、非家屋被害9棟、農林業、土木、水道施設等に被害。
阿蘇山	1979	9月6日	爆発	権尾岳周辺で死者3名、重傷者2名、軽傷者9名、火口東駅舎被害。
三宅島	1983	10月3日	噴火	溶岩流出、多量の岩塊および火山灰で、住宅の埋没・焼失約400棟。山林耕地等に被害。
伊豆大島	1986	11月21日	噴火	全島民1万人島外へ避難(約1ヶ月)。
桜島	1986	11月23日	噴火	噴石が古里町のホテルに落下、重軽傷6名。近くの飼料乾燥室全焼。
雲仙岳	1991	5月26日	火碎流	火碎流に対する避難勧告。
雲仙岳	1991	6月3日	火碎流	火碎流災害(死者不明43人、建物179棟被害)。
雲仙岳	1991	6月7日	噴火	警戒区域設定、以後次第に拡大し最大時の9月には避難対象人口11000人。
雲仙岳	1991	6月8日	火碎流	火碎流災害(建物207棟)。
雲仙岳	1991	9月15日	火碎流・泥流	火碎流災害(建物218棟)。このほか雨による泥流災害あり。
雲仙岳	1992	8月8日	火碎流・泥流	火碎流災害(建物17棟)。このほか雨による土石流災害あり。避難勧告・警戒区域継続、年末時点の避難対象人口約2000人。
雲仙岳	1993	6月23～24日	火碎流・土石流	火碎流災害(死者1、建物187棟)。このほか雨による土石流災害あり。
焼岳	1995	2月11日	水蒸気爆発	焼岳南東山麓の安曇村の中ノ湯の工事現場で熱水性の水蒸気爆発、作業員4名死亡。
アカンダナ山	1995	2月11日	水蒸気爆発	安房トンネル建設作業現場において水蒸気爆発が発生し、その衝撃によって引き起こされた土砂崩れにより、作業員4名が死亡。
八甲田山	1997	7月12日	火山ガス	山麓の田代平で、窪地内に滞留していた炭酸ガスにより、レンジャー訓練中の陸上自衛隊員3名が死亡。
安達太良山	1997	9月15日	火山ガス	火山ガス(硫化水素)により、沼ノ平で登山者4名死亡。
有珠山	2000	3月31日～	噴火	地殻変動および噴石等で建物、道路、鉄道などに被害。住民避難。
三宅島	2000	8月29日	泥流	9月初めに全島避難(2005年2月1日まで)。多量の火山ガスの放出。
浅間山	2004	9月1日	噴火	農作物、ガラス等に被害。

[「日本活火山総覧(気象庁)」より抜粋し作成したもの]

■火山災害の頻度

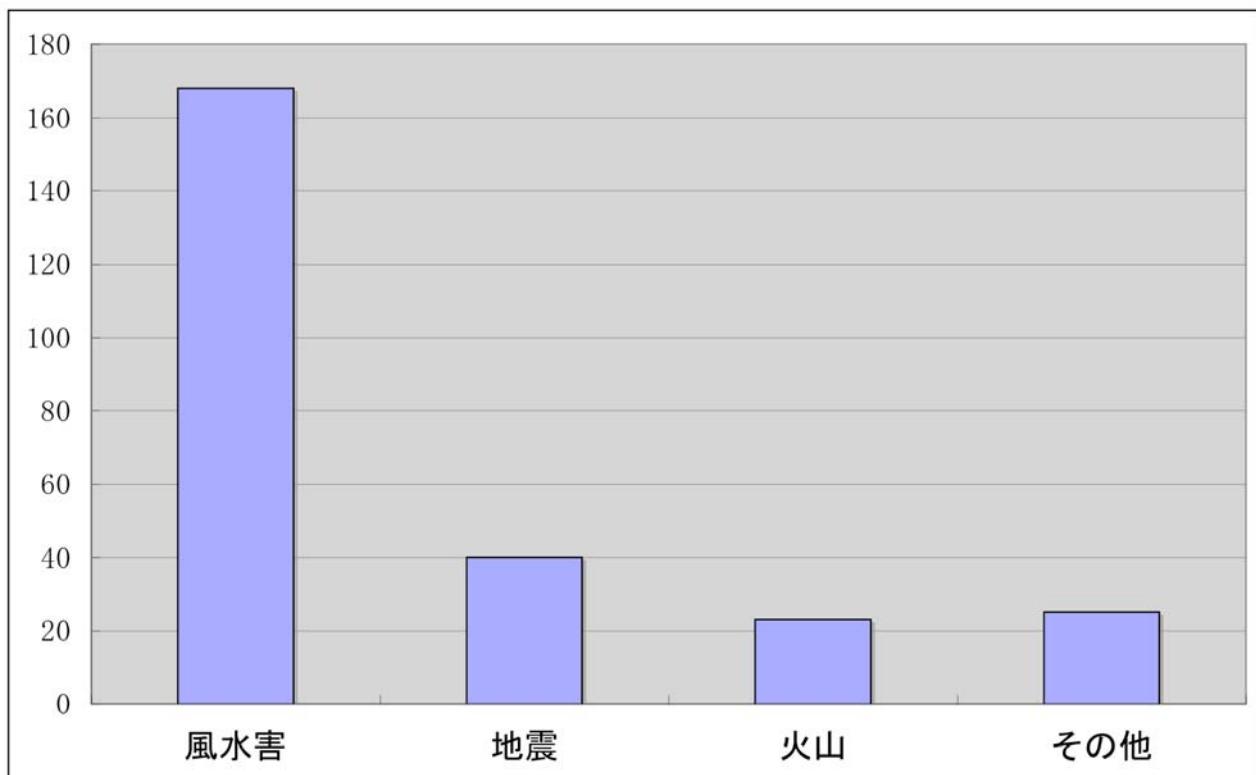
□各災害の発生件数（1950～2000年）

- ・1950～2000年までの間に、地震災害、風水害（台風、大雨・大雪等）、火山災害、その他（冷害等の気象災害）の発生件数のうち、人的被害が発生したもの、及び火山災害の場合は多数の避難者が出たものも対象に抽出した。その結果は、下表（各件数）・グラフ（比較）になる。

災害種別	発生件数
風水害	168
台風	76
大雨・大雪等	92
地震	40
火山	23
その他（冷害等の気象災害）	25

※なお、冷害等の気象災害については、被害額の大きい事例を抽出している。

<過去50年の発生件数>



参考文献等：

昭和災害史

(社)日本損害保険協会

新編 「日本被害地震総覧」 (宇佐美龍夫)

東京大学出版

気象災害表 ((株)アース・ウェザー)

<http://www.ewi.co.jp/saigai.htm>

砂防便覧

全国治水砂防協会

□主な災害の被害額

発生時		災害名	被害額（百万円）	出典
1977年8月	火山	有珠山噴火災害	88,600	a)
1978年6月	地震	宮城県沖地震	270,000	b)
1982年7月	水害	長崎大水害	315,300	c)
1983年5月	地震	日本海中部地震	160,000	d)
1983年10月	火山	三宅島噴火災害	25,600	e)
1984年9月	地震	長野県西部地震	46,800	f)
1986年11月	火山	伊豆大島噴火災害	2,200	g)
1991年6月	火山	雲仙普賢岳災害	74,800	h)
1993年7月	地震	北海道南西沖地震	124,300	i)
1995年1月	地震	阪神・淡路大震災	9,926,800	j)
1998年8月	水害	平成10年8月末集中豪雨*	66,900	k)
2000年3月	火山	有珠山噴火災害	23,300	l)
2000年9月	水害	東海豪雨	850,000	m)
2000年10月	地震	鳥取県西部地震	49,800	n)
2001年3月	地震	芸予地震	14,500	o)
2003年5月	地震	三陸南地震	11,900	p)
2003年7月	地震	宮城県北部連続地震	32,100	q)
2004年7月	水害	新潟豪雨	136,800	r)

* 栃木県那須町

出典：

- a) 1977有珠山噴火災害対策の概況（北海道総務部資料）
- b) 宮城県危機対策課HP（県内被害）
- c) 7.23 長崎大水害の記録（長崎県）
- d) 昭和58年（1983年）日本海中部地震調査報告書（自治省消防庁）
- e) 記録 昭和58年三宅島噴火災害（東京都）
- f) 長野県西部地震災害対策調査報告書（昭和61年3月 国土庁他）
- g) 昭和61年（1986年）伊豆大島噴火災害活動誌（東京都総務局災害対策部編）
- h) 雲仙普賢岳噴火災害誌（長崎県）
- i) 平成5年（1993年）北海道南西沖地震東京都調査班報告書
- j) 兵庫県発表資料（1995.4.5）
- k) 「豪雨災害のつめあと」-平成10年8月末集中豪雨災害の記録-（栃木県那須町）
- l) 消防庁資料（平成13年6.28）
- m) 建設省（現国土交通省）発表資料（平成13年1月）
- n) 鳥取県被害状況（平成14年10月5日現在）
- o) 中国地方各県まとめ（2001.4.23）
- p) 最終被害まとめ（2003.6.20岩手県総合防災室）
- q) 被害確定報（2004.3.12宮城県危機対策課）
- r) 新潟県各部局資料（土木、農業関係）